

静岡県浜松市 第2期SDGs未来都市計画：計画期間2021年～2023年

(1) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2021年	2022年	2023年	2030年（目標値）	達成度（%）
1	電力自給率【7.1,7.2】	2020年 16.0 %	2021年 18.1 %			2024年 17.5 %	140%
2	市内総生産額【8.2,8.3】	2018年 31,766 億円	2021年 データなし			2024年 33,000 億円	—
3	居住誘導区域内人口密度【9.1,9.2】	2018年 61.5 人/ha	2021年 61.0 人/ha			2024年 61.5 人/ha	99%
4	自分にはよいところがあると思う子どもの割合【4.1,4.2,4.4】	2019年 83.6 %	2021年 76.1 %			2024年 85 %	-536%
5	居住誘導区域内人口密度【11.1,11.2,11.3】	2018年 61.5 人/ha	2021年 61.0 人/ha			2024年 61.5 人/ha	99%
6	ごみ総排出量【12.2,12.7,12.8】※ごみ減量推進課	2020年度 214,378 t	2021年 210,948 t			2024年 206,352 t	43%
7	自分の生命と財産は自分で守らなくてはならないと思う人の割合【13.1】	2020年7月 75 %	2021年 74.2 %			2024年 82 %	-11%
8	環境に配慮して生活していると思う人の割合【15.1,15.2,15.4】	2018年 47 %	2021年 37.6 %			2024年 67 %	-47%

(2) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況（2021年～2023年）

No	取組名	指標名	当初値	2021年実績	2022年実績	2023年実績	2023年目標値	達成度（%）
1	林業・木材産業の成長産業化	森林組合等における年間素材生産量	2019年 14.1 万㎡	2021年 12.1 万㎡			2023年 17.4 万㎡	-61%
2	林業・木材産業の成長産業化	FSC認証材の年間生産量	2019年 67,048 ㎡/年	2021年 65,657 ㎡/年			2023年 135,000 ㎡/年	-2%
3	天竜材の利用拡大	森林・環境教育受講者数	2019年 642 人	2021年 189 人			2021～2023 700 人（毎年度）	-781%
4	天竜材の利用拡大	天竜材使用木質化件数	2019年 5 棟	2021年 13 棟			2023年度 20 棟	53%
5	天竜材の利用拡大	天竜材使用木造住宅数	2019年 146 棟	2021年 160 棟			2023年度 250 棟	13%
6	持続可能な森林経営の推進	F S C 森林認証面積	2020年度 49,130 ha	2021年 49,441 ha			2023年度 49,800 ha	46%
7	持続可能な森林経営の推進	森林間伐面積	2018年度 2,456 ha	2021年 データなし			2021～2023 6,000 ha 年の累計	—
8	再生可能エネルギー等の導入／省エネルギーの推進	エネルギー（電力）自給率	2020年3月 16.0 %	2021年 18.1 %			2023年 16.8 %	263%
9	スマート化の推進	スマートシティに資するプロジェクトの創出数	2020年3月 8 件	2021年 9 件			2023年 12 件	25%
10	外国人の子どもの就学状況の実態を継続的に把握し、訪問による就学案内・情報提供、教育相談等、就学に向けた教育支援を行うことにより、不就学の解消を目指す。	外国人の子どもの不就学児童生徒数	2020年3月 4 人	2021年 1 人			2023年 0 人	75%

静岡県浜松市 第2期SDGs未来都市計画：計画期間2021年～2023年

(3) SDGs未来都市計画推進のKPI達成に係る評価及び課題等

- ・電力自給率については、太陽光発電の導入が順調に推移している。太陽光発電及び風力発電については、条例・ガイドライン・ゾーニングに基づき、地域との共生と立地環境に配慮し、地元周知の徹底など適正な導入拡大を進めるとともに、既存施設についても長期持続的な適正管理が必要である。
- ・居住誘導区域内人口密度の2021年度実績で61.0人/haであり、一定程度の維持ができています。平成30年度に策定した立地適正化計画に基づき、引き続き、誘導区域への居住誘導を図る。
- ・自分にはよいところがあると思う子どもの割合について、2021年度実績は、小学校77.8% 中学校74.4%となり、前年度より減少している。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため学校行事が縮小されたことなどにより、自分の良さを発見する機会が減少したことが影響していると考えられる。今後も、子供の個性に応じた支援体制を整備することにより、子供と大人の心の通い合う温かい人間関係を構築し、夢と希望を持って学び、生きる力を身につけていく。
- ・自分の生命と財産は自分で守らなくてはならないと思う人の割合の2021年度の実績は、前年度に比べ0.8ポイント減の74.2%にとどまっている。これは2020年と同様、コロナ禍において自治会や地域の団体から防災に関する出前講座の申込み件数が低調であったことや、地域での防災訓練を実施できなかったことによるものと考えられる。これらのことを踏まえ、2021年度から防災学習センターにおける講座のWeb開催や地域防災リーダー研修会のYouTube動画配信を行うなど新たな形の啓発活動に取り組んでおり、今後も同様の取り組みを推進していく。
- ・環境に配慮して生活していると思う人の割合は、2021年度実績で37.6%にとどまっている。移動環境教室や環境イベントなどの環境教育、SNSを活用した啓発事業、海岸・湖岸の清掃美化活動、生物多様性保全の取り組みを通して、市民の身近な自然や地球環境問題への意識を高め、行動変容を促す。
- ・森林林業分野については、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う景気の低迷から、素材生産量及びFSC認証材生産量が減少するとともに、イベントなどの減少から森林・環境教育受講者数が減少した。現状は、コロナに関する休業等は行っておらず、関係業者も積極的に木材生産活動を行っているため、素材生産量の増加に期待したい。FSC森林認証面積は順調に増加しており、天竜材使用木質化件数も補助事業の周知等の効果により増加している。天竜材使用木造住宅数も増加しているが、目標達成には至っていないため、更なるPR活動を行い、目標の達成を目指す。
- ・スマートシティに資するプロジェクトの創出数については、エネルギービジネスの拡大を図るため、引き続き、浜松市スマートシティ推進協議会活動において、民間主導によるスマートプロジェクトを推進し、実装に向けた取り組みを強化する。
- ・外国人の子どもの不就学児童生徒数については、教育委員会や外国人学校等、関係機関との連携により、就学状況の継続的な把握に努め、訪問による面談やカウンセリングの実施、就学に課題を抱える外国人の子どもの学びの場の確保など、きめ細かな支援を行っている。外国人の子どもたちは、学校に通うことに対する不安だけでなく、家庭問題、経済的問題、日本語能力、生活習慣の未習得などの課題を抱えており、日本語指導をはじめ、母語指導、日本の生活・文化への適応支援などの充実が必要とされている。また、定住化の進展とともに、多国籍化が進んでおり、日本語教育支援体制の充実が求められている。